

インターバンクの声（2015年9月15日）

先週末の時点では、まだ9月16-17日の米連邦公開市場委員会（FOMC）での利上げ決定の可能性が充分に残っているとの様子だったが、どうも昨日の海外市場では利上げ見送りとの見方が大幅に広がっていたようだ。13日に発表された中国の8月の鉱工業生産が市場予想を下回り昨日の上海株が大きく下落、政府による国有企業の改革を加速させるとの発表も効果が見られなかったことなどが嫌気されたようだ。中国だけでなく世界的な経済先行き不安から今回のFOMCでの利上げの正当性が疑わしくなっているが、相場が読み難くなるのはむしろ利上げがない場合になりそう。今日の日銀金融政策決定会合では追加緩和の決定は温存されることになりそうだが、黒田総裁の会見での発言には市場も注目するだろう。120円台での取引時間が長くなっているドル円相場だが、暫くは見納めになってしまうのか、それともしっかり上値を追っていくことになるのか、とにかく金曜日の日本時間の明け方には決着が付くことになりそう。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。